

労働の価値の変化

令和6年9月23日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

世界的インフレと通貨価値の上昇は、金融資本の投資変化とともに、労働が新しい価値を自己に求め、社会と生活への変化を有すると考えられる。

これは、給与の変化は、その労働への新しい社会の判断を有することであると考えるものである。これらは強制と労働という過去の遺産から、労働が新しい価値を有する企業社会への転換を有することであると判断するものである。

これらは知的集積産業における高賃金や、GAFAM などにおける新しい給与体系は、そのトップトレンドとして企業における変化を与えるものである。

また現状の通貨価値の新たな変化と固定化は、これら労働価値がグローバル経済において標準化して存在すると考えることは可能なのである。

これらは低賃金と強制労働という現実に対して自主性と責任という優れた労働環境が相反して存在するものであり、それらへの給与の差は、企業の倫理的判断において存在することは正しいと考える。

これらはグローバリゼーションへの考察を要求し、統一される経済においてこれら通貨価値と給与額は大きな考察を要求されるものである。

これらはグローバル市場における需要が存在し、それらは統一された基準において判断が存在するのである。

これらはまた金融資本における新たな移動と存在が背後に刺し新たな先端産業という現実の育成と富の創出を与えるものなのである。

これらは現状の巨大企業への規制は、これら利益の創出において、知的産業の大きな利益性が存在し、これらが富の集約とともに、新たなグローバル経済の固定化を与えているのである。